

同	下期	四、九一〇	一一、〇一六
同	十年上期	七、六七八	一四、六三五
同	下期	八、九九九	二一、六八九
同	十一年上期	一〇、五八六	二四、七六四
同	下期	一七、九三四	二六、〇〇四
同	十二年上期	三八、二一一	二九、四五六
同	下期	五四、三八一	三四、六一一

流動資産の増加割合は日曹が大きい。即ち十倍である。電工は四倍一分となる。

流動資産の内、主な科目は有價証券である。日曹は二千五百八萬圓外に受取手形で四百八萬圓を融通してある、二夕口合計二千八百十萬圓となる。電工の有價証券投資は七百二十七萬圓、受取手形四百

二十三萬圓、合計一千百六十萬圓である。
右により直接擴張計畫を進めてあるばかりでなく、投資増加に力を
入れてゐることがよく解かるのである。
資産膨脹の裏面に於いて負債も増加された。最近の負債内容は次の
如くなる。

	日本曹達(十二年十二月末現在)	日本電工(十二年九月末現在)
拂込資本金	四一、六三〇	三一、二五〇
積立金其他	三、九七一	二、五九六
計	四五、六〇一	三三、八四六
借入金	—	一六、六〇〇
社債	—	一三、〇〇〇
割引手形	—	四、二三五

支拂手形	二九、二〇七	四、七〇七
其他	七、一〇一	五、八六三
計	四〇、四〇八	四四、四〇五
合 計	八六、〇〇九	七八、二五一

日曹は十二年夏増資を実施した、未拂込九百七十四萬圓を徴收の上増資新株第一回分一千二百七十九萬圓を徴收したから、株金が膨脹した代り外部からの負債は激減した。來五六月頃第二回の拂込を徴收されよう。

電工には、現在の處、拂込資本金以上の大負債がある。來四月一日一株十七圓五十錢、合計八百七十五萬圓の拂込を決定した。これに依り當面の借金澤山は緩和される。けれども、到底充分でない。成績

にユトリを生ずれば、又も次ぎの拂込徴收を実施されるものと思ふ十二年下期に於て配當を二分減の一割に引下げた。減配によるユトリ増加は一年六十二萬圓だから内容整備に効果があると思ふ。日曹は引續き一割二分配當維持の方針である。株金の膨脹が急激だから減配を懸念されるけれども、當局者は當分据置く方針のようである。固定資金に對する賣上收入の割合は双方同程度である。日曹と電工の成績は表面上、大して差別は見られない。

○日本曹達の成績

期 別	平均拂込資本金	利益金	利益率	配當率
九 年 上	三、七六七	八〇六	四・二八	一・二〇

同	下	五、二〇〇	九一二	三・五〇	一・二二〇
十年	上	五、二〇〇	九六一	三・六九	一・二二〇
同	下	五、七三四	九八五	三・四三	一・二二〇
十一年	上	七、三四〇	九八二	二・六七	一・二二〇
同	下	一、二五〇	一、三五七	二・四一	一・二二〇
十二年	上	一七、二一〇	一、三六六	一・五八	一・二二〇
同	下	三、七三六六	四、二三九	二・二七	一・二二〇

○日本電工の成績

期	別	平均拂込資本金	利益金	利益率	配當率	
九年	上	六、〇〇〇	四九五	二・五五	一・二二〇
同	下	一、二五〇	一〇六五	二・二四	一・二二〇
十年	上	一、二五〇	一、三九七	二・二四	一・二二〇
同	下	一、六二七	二・一五	二・一五	一・二二〇
十一年	上	一七、〇八三	一、九〇八	二・二四	一・二二〇
同	下	二、〇〇〇	二、二八三	二・二八	一・二二〇

十二年上.....二七、〇八三 二、九五一 二・一九 一・二二〇
 同 下.....三一、二五〇 三、一三五 二・〇〇 一・〇〇〇

日曹は苛性曹達を基本とする化学薬劑、即ち鹽素、水素の利用工業に傑出し、アルミニウム、マグネシウム、合金鐵、亞鉛製煉、油脂工業に及んでゐる。

電工は沃度系統、鹽素物、特殊鐵、アルミニウム、炭素電極等に特長がある。

兩社とも逐年急激に發展膨脹したものである。そして製品は政府の保護に依つて高値を維持されてゐるから、當分現在程度の成績は繼續される。

藥劑工業は國策に依つて、今後とも手厚い保護が續けられる。外國

品の壓迫で經營が困難に陥れば救濟策は一步前進される。事業の實態から見て、これ以上飛躍的好成績は期待されるものでないが國策の障壁に育まれて發展を續けるものと思ふ。

こう云ふ事業株は、内容のみから批判出来るものでない。國家の庇護に依つて決定される。時節柄のことだから、株式は安値に買物が入るから暴落は考へられぬ。安値を拾つて居れば次の高値に利喰が出来ゐる。そうした機會は一年に二回や三回はあるものと思ふ。

興味に富む事業株

戦時經濟に於て伸びる株式は數多くある。發展性に富むものに投資して忍耐すれば必ず報いられるわけだが、以上、列記したもの以外にも興味株はある。ラサ工業、白煉瓦、東拓、製粉、煙草などである。ラサは資源株、化學工業株として面白い、東拓以下は事變と支那進出に刺戟されて躍動を期待されるのである。支那の經濟工作に踊るものは、鐵道機關車、車輛製作、交通設備等も見遁されないものであるが、こゝでは、前文の説明とナルベク重複に亘らぬように右の數銘柄に限ることにした。

ラサ工業

ラサ工業の中心事業は硫化鑛採取、化學藥劑と肥料製造にある。沖繩縣ラサ島の磷鑛石採取をも行ふのである。

時局以來、漸次成績は向上したのであるが、岩手縣田老鑛山の開發により一段と興味が加つた。

田老鑛山は硫化鑛にして銅分を混ざる。所謂含銅礦化鑛である。開發利益が大きいので面目一新を來したのである。

資本金一千二百萬圓の處、十二年十月一千三百萬圓を増加して積極方針を樹てた。現在拂込資本金は一千五百二十五萬圓であるが、來四月一日一株二十五圓合計六百五十萬圓の拂込徵收が行はれる。これだけで充分でないから、來十月初に未拂込殘額三百二十五萬圓を

徵收の上、二倍増資を實現される。即ち五千萬圓である。増資新株は一對一の割當となる。

前途の興味は増産擴張と、生産品の騰貴による利益増加に分けて考慮を要する。

田老鑛山の開發は採掘量の増加と附帶設備の建設である。採掘量は月産硫化鑛一萬噸を二萬噸に増加される。坑内坑外の設備を擴充するのであるが、これに附帶して銅の製煉設備、硫酸の製造を開始される。沖繩縣慶良銅山の採掘をも併せ進められる。

燃料として山形縣田川炭鑛の採取も行はれる。

今後の所要資金左の如し。

◎今後の擴張開發資金

田老鑛山増産設備	四、〇一四、〇〇〇 ^円
製練設備	六、一五〇、〇〇〇
慶良銅山	一、〇〇〇、〇〇〇
田川炭礦其他	五〇〇、〇〇〇
大阪工場擴張	二四〇、〇〇〇
運轉資金	二、五〇〇、〇〇〇
合計	一四、四〇〇、〇〇〇

以上一千四百四十萬圓である。來四月一日の拂込徴収は、右の一部に充當されるのだが、尙ほ七百九十萬圓不足である。十月一日に三百二十五萬圓を徴収しても充分でないから、否應なしに倍增々資を必要とするのである。右とは、別に、ラサ島の磷礦石採取増加があ

る。現在月産五千噸程度であるが、二千噸を増加される。これまでの磷礦石は、鐵アルミナ分一〇%以上を混ざるものは不合格品として篩るひ分けられた處、外國磷礦石の輸入制限から條件を緩和された。肥料製造技術の進歩から硫磷安の製造が多くなり、その原礦としての用途が開けた爲めでもあるが、当社にとり意外な儲けものとなつた。不合格廢物は島内至る處に堆高く殘されてあるから有り難い事である。

一月以後硫化鑛の値上げが實施される。硫化鑛は一成分に四十錢と極められてゐた處、新年から鑛石會々員加盟會社は値上げを決定した、四十八錢である。

礦石會々員は日本鑛業、藤田鑛業、住友鑛業、三菱鑛業、古河合名の五會社であるが、アウトサイダーは、それに満足せず、一躍五十五錢の大幅引上げを迫つた。

アウトサイダーの主張する處は、時局以來、政府の慫慂に基いて増産計畫を實施して來た、高物價をも顧みずに積極方針を進めたから鑛石會のそれに較べて原價は高くなり到底不引合と云ふにある。政府はその裁決に困惑してゐる様子であるが、五十二錢見當に引上げは止むを得ないものと思ふ。従前に對し一應に付五圓十六錢の値上げである。

右は普通鑛石品位四三%と見ての計算であるが、當社は採掘設備を

二倍に増大し、選礦設備により精鑛の回收を多くするから、とくに有利となる。

磷鑛石の値上げも必至である。平均應當り五十圓近くになると思ふ化學藥劑と過磷酸肥料の賣行は従前通りと見ても不安は考へられぬ來三月末の利益金は二百二十萬圓前後を見込まれる。利益率約三割だから一割二分配當の維持は可能である。

上期は創立二十周年に當るから一時的特配を行ふ内意もある。硫化鑛の大幅値上げをして特配をしたとあつては、世上の非難を受けはしないかを當局者は氣支つてゐるようで、まだ確定してゐない。増産、値上げ、拂込徴收、増資の四重の好材料を前にしてのものだから

ら株式には興味が大き。舊株は百十圓である。之に對し新株は六十一、二圓（十二圓五十錢拂込）だが、押目は買はれる筋合にある。

品川白煉瓦

製鐵事業の大擴充計畫に刺戟されて耐火煉瓦の需要激増は確定的である。そのことがなくとも、軍需工業の勃興に助けられて成績は向上したのであるが、右に依り一層の躍進を約束されるようになった。

恰かも、岡山第三工場が完成した。月産一萬二千噸の新鋭設備であるから、當社の偉力は一段と加つた。新年一月は二千噸の運営に過ぎなく、それ以後、二三ヶ月毎に二千噸宛の能力増加となるのだが

製鐵熔鑪の連續建設が行はれる際だから、とくに力強く感ずる。第三工場の新設費は三百萬圓かゝつた。十二年十月六十二萬五千圓の拂込を徴収したが、來三月一日又も同額を徴収することに内定してゐる。これにて資本金五百萬圓は全額拂込済となる。

十二年九月決算の利益金は三十三萬圓であつた、十三年二月決算のそれは四十萬圓と見られる。

來四月以後は第三工場のフル運轉に依り一段の好成績を豫想されるが、内輪に見ても半期利益金は八十萬圓を下るものでないと思ふ。利益増加が確實だから倍額増資が行はれる。現在の五百萬圓を折り返へして一千萬圓に増加される。増資新株第一回拂込後の資本金は

六百二十五萬圓となるが、半期利益金の八十萬圓は利益率二割五分に當る。現在の八分配當は低過ぎる。二分程度の増配は動かぬ處と見られる。製鐵、機械製作會社は軒並みに好成績である。一割以下の配當に甘んじてゐる向は見られない。一二の例外はあるとしても大體が高率配當を續けてゐる。そうした向に對し必要缺くべからざる素材を供給する當社が八分配當に忍耐しなければならぬわけはなから、二分増の一割配當は必至と思ふ。

來三月の拂込徴收を機會に、アトは倍額増資、二分増配を構へられる。そうなつても、これまで以上の利益増加となるのだから株式に興味がある。

舊株の八十八九圓、三十七圓五十錢の拂込の新株七十四圓は樂觀される。

東亞煙草

當社の成績は滿洲國獨立以來、好轉した。支那側の苛酷な壓迫が取除かれた上に、英米煙草の理不盡の競争が止められたからである。

北支から中支へ、中支から南支への政治經濟工作は擴大される。中支南支の經濟工作は、北支程に進んでゐないけれども、段々と擴大されるのである。既に、蔣介石政權を認めないことになつたのだから、日本の政治經濟上の勢力はやがて支那全土に及ぶことになる。當社は國家發展の線に沿ふて進むのだから前途の膨脹を期待される。

とは云へ、營利會社だから計算を無視することは出来ない。治安の恢復した地域から一步々進出するのである。

滿洲事變直後、當社の煙草製造高は一年三十億本であつた。現在は二倍の六十億本に増加したが、北支への進出を決定してゐる。前年冀東政府の設立を機會に天津工場を復活し、秦皇島に新工場を建設した、北支發展の第一歩であるが、今日となつては斯様な小計畫では満足されなくなつた。

従來、當社の北支に於る煙草販賣は一ケ年三億六千萬本であつた。處が、最近四倍の躍進を見るようになった。まだく、販賣増加を豫想されるから、前途の發展對策を必要とする。必然的に經營機構の

改組に進まなければならぬ。

會社の改造順序は次の如くに行はれる。

一、北支に於る當社の天津、秦皇島兩工場を現物出資して、新に資本金五千萬圓内一千二百五十萬圓拂込の華北東亞煙草會社を設立。
一、滿洲にある當社奉天、營口兩工場を現物出資して、滿洲東亞煙草會社を新設、資本金二千五百萬圓全額拂込濟。
右の如くすると、當社の事業は關東州の煙草製造、販賣と右二會社の出資になる。

當社の資本金は一千百五十萬圓、内拂込九百四十萬圓に止まる。斯かる小資本を以て、今後の發展計畫に順應することは不可能である

仔會社への投資だけで七千五百萬圓を要する。さし當りの拂込は三千七百五十萬圓に止まるが、今後、これと同額の拂込を必要とするのである。

當社の小資本を以て賄ひ切れるものでない。

株價は前途を囑望されて騰貴した、舊株百二十三圓、三十五圓拂込の新株は八十四五圓である。未拂込は、近くに徴收される。増資が具體化すると思ふ。

製粉株

北支の治安恢復で製粉の輸出は激増した。十二年八月以前と九月以後では全く狀勢一變である。

一	月	十二年	十一年
			千袋	二八二	五〇九

二	月	二五五	四八二
三	月	二九二	六五〇
四	月	三〇九	七一七
五	月	二二八	六四九
六	月	二五九	五七八
七	月	二六六	二八七
八	月	二八九	二四一
九	月	一、〇〇五	二〇〇
十	月	一、〇六六	四八七
十一	月	一、四〇二	六六九
十二	月(推定)	一、六〇〇	四三一
合	計	七、二五三	五、八四六

輸出増加は大部分が北支向である。

日本製粉は、三井物産と共同して青島に三吉麵粉廠の經營を始めた

濟南工場の建設にも着手した。一時中止したが、再興される。

滿洲奉天と四平街工場は既に運営を開始された、右二工場は仔會社の東洋製粉股份有限公司に依つて經營されるのである。

支那の經濟振興は段々と擴大される。

支那新政府は、小麥粉の關稅を當分無稅とした。上海粉の入荷が止まり、地元の製粉工場が休轉してゐるから日本粉の大量入荷を必要とする爲めに外ならぬ。

日粉會社の活躍は必定で、近く増資を實現される。

日清製粉と同様である。十二年下半期の輸出は三百萬袋に上つた製粉能力は内地十四工場、合計二萬一千百バレルである。外に委

託工場が五千六百バレルある。委託工場の内二千五百バレルは四平街、牡丹江にある。

北支進出は、日粉の如くに進んでゐないけれども、今後積極經營を期待される。近くに新株の拂込徴收を實現される。

東洋拓殖 朝鮮、滿洲、北支、南洋に於て拓殖投資に活躍して來たが、今後一層期待される。

今後の發展計畫は、國策の輪廓に依つて決定するわけだが、現在實施中のものは、朝鮮鴨綠江の水力開發である。既に江界水力の資本金五千萬圓を決定した。昭和肥料、東電、東信と共同事業だが、資金の大半は當社から供給される。

北支に於ては長城煤鑛鐵路の創立となり、開灤炭鑛の開発、棉花の栽培擴張、裕大紡、天津紡の擴張がある。

現在の處、北支への投資額は一千五百萬圓程度であるが、本格的投資は、これからである。當社單獨で賄ひ切れるものでないと思ふがさらに發展の希望が大きいのである。株式として興味がある。

十二年下期の配當は一分増の六分に引上ることになり、政府に申請中である。多分許可されよう。

乗替株の研究

株式投資には乗替りが大切である。

株式は材料で動く。主力株も、雜株も、時代の流れと經濟界の實相を反映して變幻萬化の足取りを呈する。一步先ずるものは成功し、アトを追ふものは馬鹿を見るのである。

今から四ヶ月前、即ち十二年九月頃、諸株は一齊に暴落した。このとき日産新株は四十三四圓に（九月四日）低落した。

當時、株式界は押しては伸び、鍛鍊を續ける情勢にあつた。その時日産新株の安値を買つたものは大に儲かつたのである。日産新は現

在七十圓がらみに引返へしてゐるから、差引二十七八圓の値上りである。四ヶ月間の騰貴として申分ない方であらう。

その當時、電力株も下押した、東電東邦とも四十七八圓に低落したのである。爾來環境の展開につれて恢復した。現在東電は五十五六圓、東邦は五十四五圓となつた。矢張り安値に買つて置くことが有利であつたのである。

實際に於てアノ當時、新規に買つて出る程資力を持つてゐなかつたといふことを考へられる。そうとしても、その際に、東電東邦其他電力株の所有者が日産新に買替へてゐたならば、どうであつたらうか。當時に於て、東電一と日産新一ならば樂に交換することが出來

たであらう。電力株は兎角不振である。電力國家管理案の重壓が除かれないから伸び悩むのである。

日産新の活氣づいたのは、滿洲進出を決定してからである。滿洲移駐のことは、晴天の霹靂であり局外者にとつて考へられなかつたものだが、日産が日頃積極經營に努力し、何かやる會社であることは廣く知られてゐたのである。何かやる會社の株式が投資上興味があるのだ。

従つて、投資上の必要條件は、何かやる會社の株式である。電力會社は何もやらない、やれない。國家管理の壓迫障害が取り去られた上でなければ、何もやれないのである。アノ當時、電力株を日産新

に取替へて置けば、電力管理の不安から遠ざかり、樂に儲けることが出來たのであつた。

投資物の入れ替が有利であることがよく判かるではないか。

入れ替は、何時の時代でも可能である。又た終始、考へて、實行を續くべきものである。

要するに、サカリを過ぎた過去の株式を、新らし味のある株式に取り替へる事である。

新味は、經濟界の環境に依つて培養されて來る。國家の必要からも起つて來る。大勢を洞察して、豫め、それに備へるにある、早く實現されるものを選ぶのが早道である。株式を持續けるならば必然的

に何かやる機運にある株式を狙ふべきであると思ふ。

日本鋼管新、小倉製鋼新に就いても同じである。第一鋼管新は四十九圓の安値（十二年九月四日）に下げた。新年二月初には七十四圓である。途中に十二圓五十錢の拂込を加へたが、それを引去つても十二三圓の値上りとなる。最近の騰貴は來四月の拂込徴收を好感してのものである。けれども、日頃の積極經營から推して當然のこと、思ふ。

十二年九月初、小倉製鋼新は三十圓丁度であつた、現在は六十七圓である。來四月の拂込決定、倍額増資を材料に買はれたのである。日産新株以上の大幅騰貴である。

鋼管新、小倉新の事業は國家發展の線に沿ふから前途を囑望されるその上、當局者は、機會のある度毎に一步々々前進を心掛けてゐるからである。

舊株を新株に買替へる事は有利である。その代表的の例として、小倉製鋼、日立製作を挙げられる。小倉は最近四ヶ月間に於て舊株は二十二三圓の騰貴となるのに、新株は三十六七圓高である。日立製作は十二年九月舊九十圓、新株四十四圓（十二圓五十錢拂込）であつた。現在は舊株百十圓、新九十六圓（二十七圓半拂込）となつた。舊株の二十圓高に對し新株は正味二十七圓高である。

これからの投資は、何かやる會社の株式を狙ふべきである。即ち拂

込と増資の近いもの所謂膨脹性のあるものに限る。そして經濟界の情勢が悪くて株式不振のときに安値を買入れることが最も効果的である。

新東株の値幅

十二年中に於る短期新東株は高値百八十圓五十錢、安値百二十七圓十錢、上下の値幅は五十三圓四十錢であつた。十一年の値幅は四十九圓七十錢、十年の四十六圓三十錢である。

時局以來の経過を見ると、昭和七年の九十四圓五十錢を最高とし、それ以來、値幅の波紋は漸次縮少されたのである。

十三年の新東は高いか、安い。高い安いの目安は、どの邊のものであるか。

繰り返して云ふ如く、現在の經濟界は戰時體制で束縛されてゐる。

統制強化、輸入制限はもとよりのこと、公債の大増發、増稅、煙草値上げで國民の生活は脅かされてゐる。支那を徹底的に膺懲し、東亞永遠の平和を確立する上に於て止むを得ないわけである。

支那に於る政治經濟工作はグン／＼と進展してゐる。戰鬪そのものは既に峠を越して勝負は明かになつてゐる。これからは、全面的な政治經濟工作に這入るのである。

北支に於る政治經濟工作は著しく進んだ、冀東政權の合流を決定し山東山西にも擴大されてゐるが、上海方面は、そこまでに到らないこれからと云ふ處である。日本經濟の膨脹を期待される。

新東相場には、政治經濟界の實體が反映する。今後の經濟發展が、

相場の上は無反應と云ふことは、あり得ないのである。
 十二年一月—十二月の新東取組高を見ると、八月が最少で、それ以來順次に恢復してゐる。十二月の取組高は、一月に對し殆ど同數である。

十二年一月		八年一月	
同	一月……三六六、〇三〇	同	一月……三六五、一五〇
同	二月……四〇三、九〇〇	同	二月……三六三、〇四〇
同	三月……四四五、六五〇	同	三月……三六三、三五〇
同	四月……三七〇、九一〇	同	四月……三〇一、五二〇
同	五月……三〇七、〇一〇	同	五月……二五八、九八〇
同	六月……三二七、八六〇	同	六月……三三七、四五〇
同	七月……二七〇、三七〇	同	七月……四二九、二六〇
同	八月……二九三、〇九〇	同	八月……三二八、六三〇
同	九月……	同	九月……三四〇、四九〇

同	十月……二八七、九一〇	同	十月……三六六、一一〇
同	十一月……二九四、九五〇	同	十一月……三七七、七二〇
同	十二月……三七七、七二〇	同	十二月……二九九、六二〇

十三年一月……三八三、〇六〇
 (備考) 毎月十五日現在高による、但し十五日が休日の時は十六日現在高に依る。

十二年一月は、環境の好轉に刺戟されて株式界は大活躍を演じたのである。餘勢は三四月まで續いた。十二月の取組高は、それに較べると劣るけれども決して悲觀すべきものでないと思ふ。政府は時折りに、投機抑制の態度を示すから、動もすれば、新東相場は氣が抜けるが、そうとしても、最近の取組が再増加の機運にあることは否めないのである。

戦勝相場の必至を信ずるものが、多い爲めと察せられる。

戦勝相場が現はれるのは、支那が安定して、皇軍將士の凱旋する頃であらうが、そうした時期は一步步近づいてゐる。

支那の治安が恢復しても、英、米、ソ、其他の軍備大擴張は止むか疑問と思ふ。

そうすれば、日本の国防充備計畫は緩められない。依然、重工業、国防産業の活躍は続く。經濟界は跛行的景氣の連続となる。新年の新東相場は見縊れないのである。

と云つても、戦争は現實に終熄したのではない。物資の供給不圓滑は容易に緩和されない。統制強化は依然として続き、國際バランス

の好轉は期待されない。國際狀勢の感觸はよくないから不安は續かう。

新東は樂觀材料と悲觀材料の間に揉まれて波瀾を繰り返へすものと思ふ。新年の高値は、どの邊のものか判然しないが、八年の高値二百三十圓を抜くことは困難と見られる。その代り極端の安値は考へられぬ。穩當の見方をすれば當面の高値は二百圓、安値は百五十圓程度の處ではあるまいか。

十三年、ことに前半の半年間には、特別のことがあれば別であるが……世界の平和が確立することは考へられぬから、目先突飛な高値は現はれないと思ふ。

新東短期相場の推移

年	高値	安値	値幅
大正十三年	一〇七・〇	八五・二	二一・八
同十四年	一四二・七	八三・六	五八・四
昭和元年	一八七・八	一三〇・四	五七・四
同二年	一八八・〇	一二七・九	六〇・一
同三年	一九五・〇	一五八・一	三六・九
同四年	一六七・四	九六・一	七一・三
同五年	一一二・七	八二・六	三〇・一
同六年	一六九・〇	九一・〇	七八・〇
同七年	二二二・三	一二七・八	九四・五
同八年	二二九・〇	一三五・五	九三・五
同九年	一八三・〇	一一九・九	六三・一
同十年	一七八・〇	一三一・七	四六・三
同十一年	一六九・〇	一一九・三	四九・七
同十二年	一八〇・五	一二七・一	五三・四

昭和十三年二月十日印刷
昭和十三年二月十三日發行

定價壹圓
(送料九錢)

伸 び る 株 式

著 者 阿 部 留 太

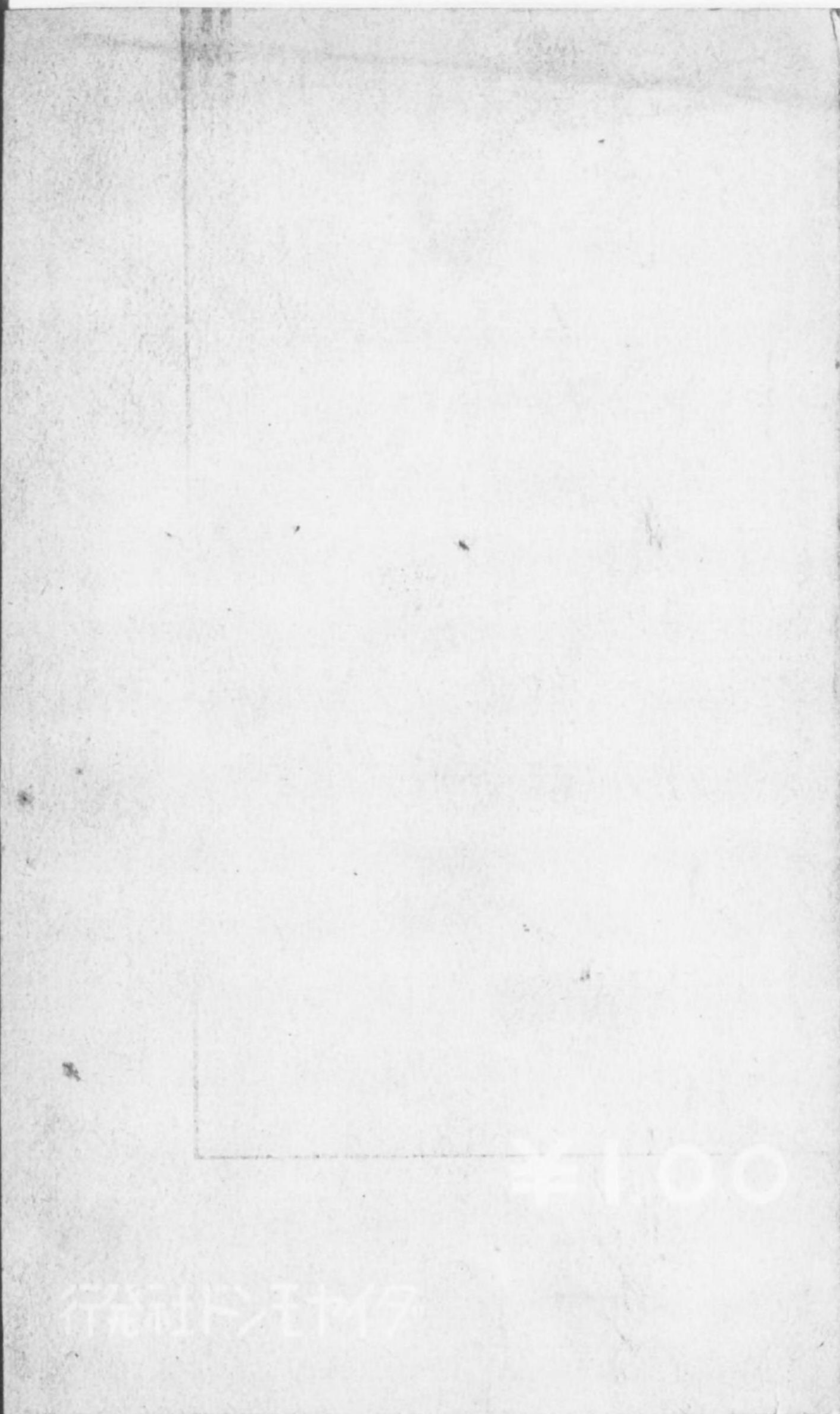
發行人 東京市總町區内幸町二ノ三
石 山 皆 男

印刷所 東京市總町區内幸町二ノ三
ダイヤモンド社印刷部

發行所

東京市總町區内幸町二ノ三
ダイヤモンド社
電話銀座區二番一七・振替口座東京三三九六
大阪支局 大阪府北區中之島朝日ビル
電話北濱五七八八・振替大阪五九八〇

終



¥100

行宛社トシキイ